

SBI証券とマネックス証券のサービス比較

2022年8月9日現在

		SBI証券		マネックス証券	
ご利用いただける方		個人のお客さま(未成年は除く)		個人のお客さま(未成年は除く)	
お取り扱い窓口		店頭	インターネット (専用サイトからログイン)	店頭	インターネット (新生PDから遷移)
口座開設	証券総合口座	○※1	○	○	○
株式	国内株式	×	○	×	○
	外国株式	×	○	×	○
	信用取引	×	○	×	○
	新規公開株(IPO)※2	×	○	×	○
投資信託 ※3	国内籍投資信託	○	○	○	○
	外国籍投資信託	×	×	○	○
	スイッチング	×	×	×	○
	積立	×	○	×	○
債券	国内債券	×	○	×	○
	海外債券	×(準備中)	○	○(停止中)	○
手数料	投資信託	無料	無料	無料	無料
	株式	-	※4	-	※4
	債券	-	無料	無料	無料
その他	即時決済	リアルタイム入金(円) ※注		即時入金サービス(円・外貨) 即時出金サービス(円)	
	ポイントサービス	T-POINT、Ponta、dPoint		<マネックスポイントから交換できる> ※5 T-POINT、Ponta、dPoint、nanaco、waon、JAL、 ANA、amazonギフト券	
	上場市場	SBIホールディングス:東証プライム(8473)		マネックスグループ:東証プライム(8698)	
	格付け	JCR:A-		JCR:BBB+	

☆ 各種サービスのご利用にあたっては別途手続きを要する場合がございます。

本表に掲載されたサービスの詳細やその他のサービスについてはSBI証券HP、マネックス証券HPをご確認ください。

※1 証券総合口座開設後日における右記の開設は郵送対応となります→「特定口座」「NISA口座」(同日開設は可)

※2 新規公開株(IPO)取扱実績(2021年)→ SBI証券:125社、マネックス証券:66社

※3 取扱投資信託銘柄数(2022年4月)→ SBI証券:2,688銘柄、マネックス証券:1,250銘柄

店頭での取扱銘柄数はインターネット取扱銘柄数とは異なります

※4 お客さまの投資スタイルやご年齢等により、手数料テーブルおよび選択できるコースが異なりますので詳しくは各社HPにてご確認ください。

・SBI証券

手数料については [こちら](#)

[金融商品取引法等に係る表示](#)

・マネックス証券

[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)

※5 お取引に応じてポイントが自動的にたまり、たまったポイントはさまざまな特典と交換ができます。

・本表の作成主体は「新生銀行」、および当行の立場は「金融商品仲介」

・本表の目的：本表はお客さまが金融商品仲介口座をご検討いただくにあたって、SBI証券およびマネックス証券の各種サービスに係る情報提供を目的としており、特定の金融商品を勧誘するものではありません。金融商品仲介口座の開設にあたっては、お客様ご自身の判断と責任でお申込みください。

注)即時決済サービスについて

SBI証券にも「即時入金」という名称のサービスがございますが、マネックス証券の「即時入金サービス」とは異なるサービスです。紛らわしい名称でもありますので、以下で簡単にサービス内容を説明いたします。

1. SBI証券/リアルタイム入金

マネックス証券と新生銀行で実装している「即時入金サービス」と同様のサービスです。口座振替契約をベースに銀行→証券への即時入金を実現いたします。店頭での銀行→SBI証券への即時入金もこの仕組みを利用します。WEBでの口座開設・コース変更の際にはお客さまが別途対応する必要があります。

2. SBI証券/即時入金

お客さまが、SBI証券ログインページから銀行のインターネットバンキングにログインして振り込み指示を行う形式です。新生パワーダイレクトはこの形式に対応できていないため、新生銀行ではこのサービス利用することができません。